

# 稲作情報(令和4年6月6日)

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業振興センター

## 1. 気象概況

アメダス観測値(白石)

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年(°C)	R4(°C)	平年差(°C)	平年(°C)	R4(°C)	平年差(°C)	平年(°C)	R4(°C)	平年差(°C)	平年(mm)	R4(mm)	平年比(%)	平年(hr)	R4(hr)	平年比(%)
6月	1	21.6	22.4	0.8	27.6	28.6	1.0	16.7	16.7	0.0	21.8	69.0	317	25.9	39.1	151
	2	22.3			27.8			17.8			28.6			23.0		
	3	22.8			27.9			18.7			40.9			21.2		
	4	23.3			27.9			19.7			58.6			18.8		
	5	23.9			28.1			20.6			74.3			15.4		
	6	24.6			28.4			21.6			84.4			14.1		

○6月1半旬の平均気温は、平年と比べて0.8℃ほど高く推移した。降水量は、6月5日にまとまった雨が降ったことで平年比317となった。日照時間は多照傾向となった。

≪福岡管区気象台の1か月天気予報(6月2日発表)(予報期間 6月4日から7月3日まで)

向こう1カ月の気温は、冷たい空気に覆われやすいため平年並か低く、特に期間のはじめはかなり低い。

向こう1カ月の降雨量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。

## 2. 水稲情報田の生育状況(調査日:6月6日)

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	58.2	628	11.6	37.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈および茎数は平年並み。</li> <li>主稈出葉数は平年並み。</li> <li>葉色は平年より淡い。葉色は順調にさめている。</li> <li>幼穂長 3mm程度</li> <li>幼穂形成始期 6月3日頃</li> </ul>
	平年値	59.4	630	11.5	39.3	
	平年比(差)	98	99	+0.1	-1.5	

※ 平年値は、H21~R2年度の平均値

### (管内の生育状況)

○現在、生育ステージは幼穂形成期を迎えている。

## 3. 今後の管理

### (1) 水管理

・「コシヒカリ」は幼穂形成期をむかえている。

幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行くと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。

### (2) 肥培管理

○情報田の生育状況から判断すると、出穂前23日頃と推定される。

○穂肥施用の目安は、幼穂長15mmの時(出穂前18日頃)に群落葉色が3.3~3.7程度(36.0~39.5)まで

低下したら、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の葉色診断基準を参考にする。

ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

表1 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0~3日	3~6日	6~8日	8~11日	11~14日
幼穂長(mm)	1mm	1~3mm	8~12mm	15~20mm	25~30mm	30mm以上
草丈(cm)	~72cm	~75cm	~78cm	~80cm	~83cm	~
穂肥の施用時期				↔		

例) 幼穂長15~20mmの時(出穂前18日頃)が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の幼穂長が1mmの場合、その5日後に穂肥を施用する。

### 【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色(群落・SPAD値)を測る。
- ③ 上記①②の測定値を「穂肥診断基準」に当てはめ、施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下(3.5以下)」になってからである。

表2 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 〈ゴールド有機50〉
		群落	単葉				
穂肥 施用時	淡い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の葉色(SPAD)が36.0~39.5、草丈が80cm以下であれば、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

### (3) 病虫害防除

#### ○斑点米カメムシ

・斑点米カメムシの発生を抑制するために畦畔雑草の除草を水稻の出穂15日前(6月中旬)までに終わらせる。

※前年より生育が進んでいるため、早めに畦畔除草を行う。

特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから圃場内に発生しているヒエ等の雑草も併せて行う。

※畦畔を100m歩いて斑点米カメムシが3頭いたら、



要注意である。

エノコログサやヒエが多発している畦畔は  
カメムシの住処になっている



クモヘリカメムシ

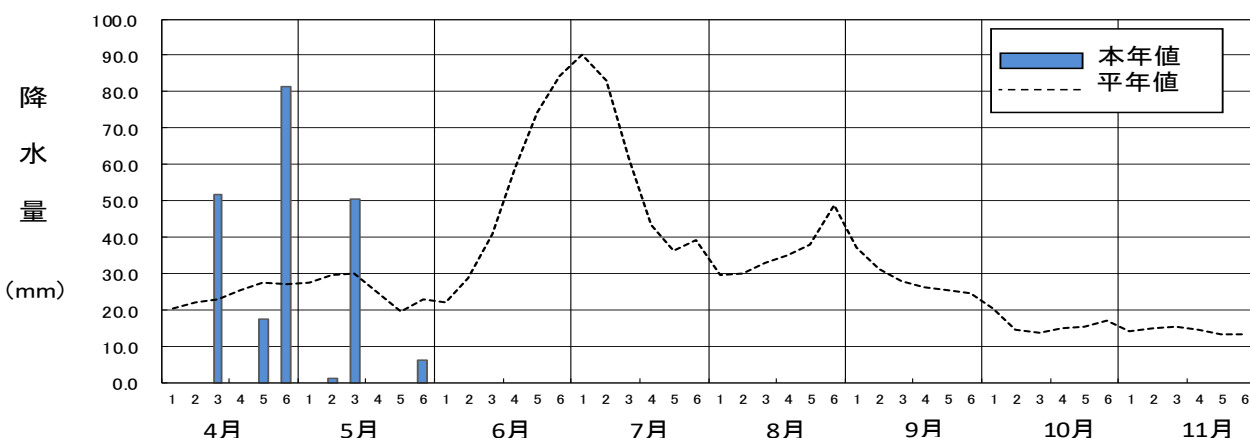
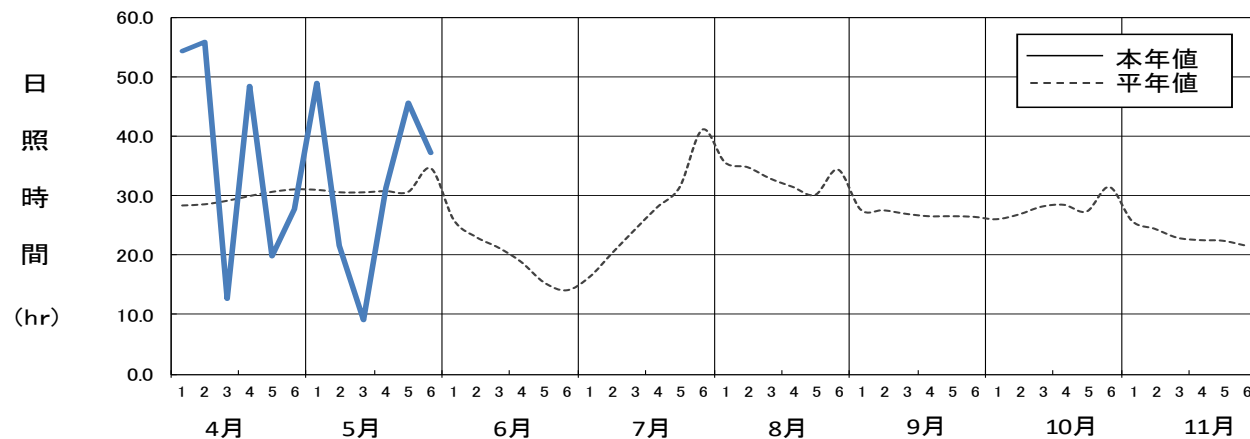
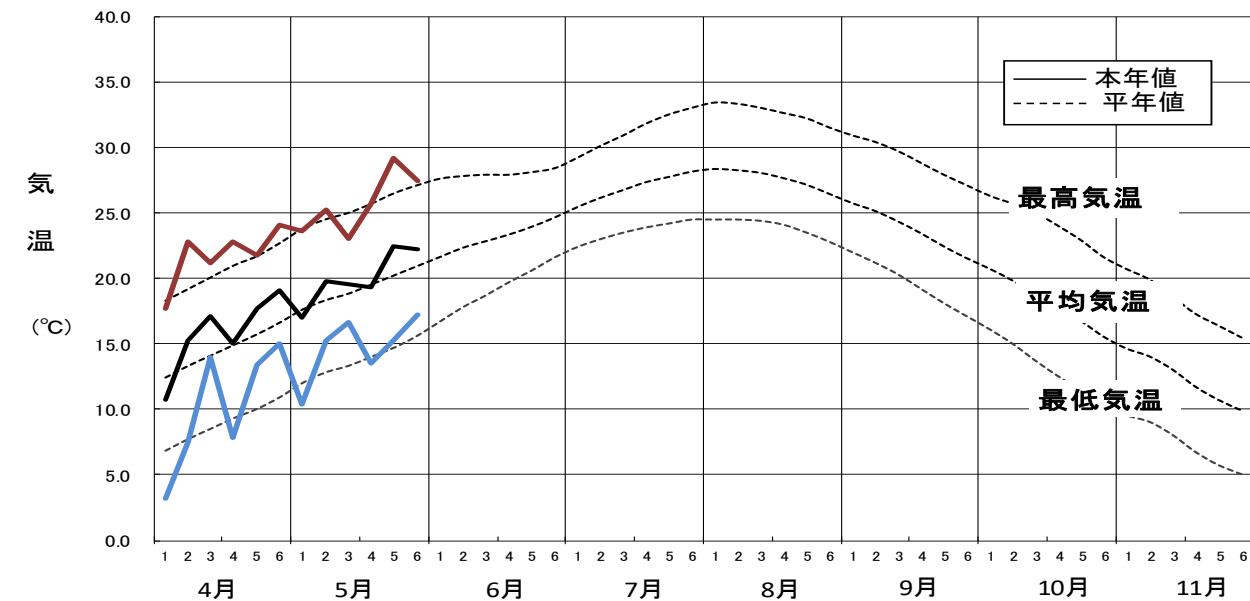


ホソハリカメムシ

## 5. 普通期水稻の育苗管理

- 今年の麦類は平年より収量が多く、麦わらの量も多い。  
麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までに窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用する

令和4年産 水稻作付期間気象図  
アメダス観測値(白石)



月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
4月	14.5	15.8	1.3	20.5	21.7	1.2	8.8	10.1	1.3	145	151	104	178	219	123
5月	19.3	20.1	0.8	25.5	25.8	0.3	13.8	14.9	1.1	155	58	37	187	194	103